

【令和5年度 美術科授業改善推進プラン】

美術科で身に付けさせたい力・目指す生徒像

- ・造形を捉える多様な視点もち、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることができる。
- ・発想や構想と鑑賞の双方に働く中心となる考えを理解し、それと関連させながら考え、判断し、表現することができる。

学習状況及び課題

	1 学年	2 学年	3 学年
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して、見通しをもって作業に取り組むことができない生徒がまだ多い。 ・道具使用の経験不足による、効率的な道具の使用や片付けができない生徒が比較的多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形活動にのびのび取り組む生徒が多い。 ・表現技能が、イメージしていることに追いつかず、早い段階で作品の質の向上をあきらめてしまう生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間の積み重ねにより、楽しく造形活動に取り組んでいる。 ・想起したイメージを明確にし、意図したことを効果的に伝えるための取組に物足りなさを感じる生徒が若干名いる。
指導上の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを分かりやすく短い時間で示すこと。 ・振り返りの質を高め、習慣的に行えるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを分かりやすくできるだけ短い時間で示すこと。 ・振り返りの質（次に必要なことは何かを考える）を高めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の取組時に造形的視点を意識させること。 ・表現に工夫を加え、よりよくなる意欲と自信をもたせること。

改善プラン

	1 学年	2 学年	3 学年
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・共通事項を大切にし、造形的な視点を意識させる。 ・鑑賞が発想や構想と連動する授業構成にする。 ・授業カードによる振り返りの時間を確保し、見通しをもって取り組むことを強く意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の主題を明確に表現するためのアイデアスケッチをできるだけ多く描かせ、造形的視点からの取捨選択をさせる。 ・造形的な視点を示し、その視点から自他の作品について意見を交換する批評会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチの段階で造形的視点から必要、不必要を判断して作品の構成をじっくり考えさせる。 ・造形的な視点を示し、その視点から自他の作品について意見を交換する批評会を行う。 ・1学期から実施している、学習者用端末のスライドを使用した授業の振り返りを継続して行う。
指導面	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを毎時間最初に明確に示し、理解させる。 ・準備、片付けを効率化し、作業時間を可能な限り増やす。 ・授業の振り返りの視点を具体的に示し、質を高める。 ・目標を具体例とともに示す、学習者用端末を利用して、視覚的にも示すなど切り口を変えて何回か伝えることで理解を深める。 ・学習者用端末の利点を生かした鑑賞授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品提示(学習者用端末を利用)し、モチベーションを高める。 ・批評会では、造形的視点から良いところを見付け、発表させる。 ・授業の振り返りは、毎時間行う、課題取組の工程上ポイントとなる何回かの振り返りには、十分時間を取って記述させる。 ・学習者用端末の利点を生かした鑑賞授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発想を広げ、イメージの明確化を図るための資料を準備させる。 ・作品を仕上げている中で、イメージを重ねる、余分なものは何か、それをどのように削り落とし、何を加えるか等、試行錯誤することに重点をおく。 ・批評会により自分の表現に自信をもたせる。 ・学習者用端末の利点を生かした鑑賞授業を行う。

評価

- ①授業アンケート結果による達成度評価
- ②定期テスト観点別学習状況による評価
- ③学習プリント及び作品